

## 概要

鳴神貝塚は紀ノ川の左岸、和歌山平野の中央部にある花山西麓に位置します。明治28(1895)年に近畿地方で初めて発見された貝塚として、昭和6(1931)年に国の史跡に指定されました。貝層の範囲は東西130m、南北100m(平成24(2012)年12月現在)におよび、県内最大級の規模を誇ります。

その後の調査(昭和27(1952)年、昭和40(1965)～41(1966)年度、45(1970)年度、平成16(2004)年度)の結果、人骨の埋葬された土坑や、縄文時代早期の貝層、縄文時代早期～晩期の土器を含む包含層を確認したことから、鳴神貝塚は縄文時代早期～晩期にかけて断続的に存続した縄文時代の集落遺跡の一部であると考えられます。

鳴神貝塚からは、縄文土器以外にも<sup>せきぞく さつき せきふ たたきいし</sup>石鏃、削器、石斧、敲石、<sup>すりいし いしざら</sup>磨石、石皿などの石製品、シカなどの骨でつくられたヘラや根バサミ、エイの尾鰭等でつくられたヤス、ヒスイ製の小玉やサルの<sup>とうこつ</sup>橈骨(前腕の骨)製の耳飾りが出土しています。また貝層からは主体となるハマグリのほか、ヤマトシジミやマガキ、ハイガイ等の貝殻、タイ科やアジ科、エイ、サメ等の魚骨類、シカやイノシシ、サル等の動物骨などの食物残渣(食べカス)も出土しています。

特筆すべきものとして、史跡指定地内で発見された手足を伸ばした状態(伸展葬)で埋葬された女性の人骨があります。この女性は、<sup>うわあご けんし</sup>上顎の犬歯2本を抜歯し、サルの橈骨製の耳飾りをしていたことから、シャーマンであった可能性が考えられます。

## Narukami Sea Shell Mound

(Nationally-designated Cultural Property: Historical Site)

Narukami Mound is a Jomon period shell mound located on the south shore of Kinokawa River, west of the Hanayama hills in Central Wakayama. Running 130 meters east and west, and 100 meters north and south, it is regarded in Wakayama Prefecture with great pride. Along with many types of shells, tools used by the people of the time, as well as discarded animal and fish bones have also been found in the shell mound. Additionally, we can tell from the confirmation of human remains buried within various pits called “doko” that the Narukami Mound was a part of a long enduring Jomon settlement. Being the first shell mound discovered in the Kinki region, a section of the Narukami Mound has been designated a national landmark from 1931.

## ACCESS

## ■ JR和歌山駅東口

和歌山バス「紀伊風土記の丘」行き  
「花山」下車、徒歩5分

## ■ 阪和自動車道

和歌山ICから南西方向へ約1km、  
花山交差点左折して200m



## お問合せ先

## ■ 和歌山市教育委員会 文化振興課

和歌山市七番丁 23 番地

TEL : 073-435-1194 FAX : 073-435-1294

## 関連施設

鳴神貝塚出土品及び関連資料については以下の施設で展示されている場合があります。見学の際には事前に各施設にお問い合わせください。

和歌山市立博物館 和歌山市湊本町 3-2 TEL : 073-423-0003

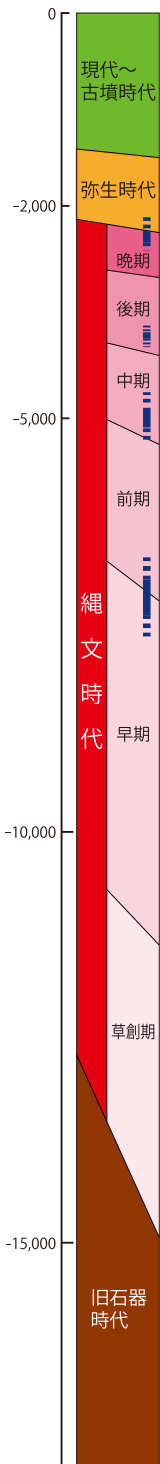
和歌山県立紀伊風土記の丘 和歌山市岩橋 1411 TEL : 073-471-6123

和歌山県立博物館 和歌山市吹上 1 丁目 4-14 TEL : 073-436-8670

## 国指定史跡

なる かみ かい づか  
鳴神貝塚

和歌山市教育委員会



貝層の堆積状態 (平成16年度調査)



貝殻 (アカノシ (左上)、マガキ (右上)、ハマグリ (左中)、ヤマトシジミ (左下)、ハイガイ (右下))



動物骨類 (イノシシ (左上)、サル (左下)、シカ (右上)、鳥類 (右下))



約 7000 年前の鳴神貝塚周辺の地形と縄文遺跡

### 沿革

明治28 (1895) 年～

下村武一郎、鳥居龍蔵らによる報告

昭和6 (1931) 年 7月31日 史跡指定

昭和27 (1952) 年

史跡指定地内中央部で縄文時代晩期の埋葬人骨出土

昭和40 (1965)・41 (1966)・45 (1970) 年度、平成16 (2004) 年度

史跡指定地隣接地での範囲確認調査

### 主な遺構

縄文時代早期～晩期にかけての貝層

縄文時代晩期のサルの焼骨製の耳飾りをした伸展葬の

埋葬人骨 (昭和27 (1952) 年度調査)

縄文時代晩期の土坑墓 (平成16 (2004) 年度調査)

### 主な出土品

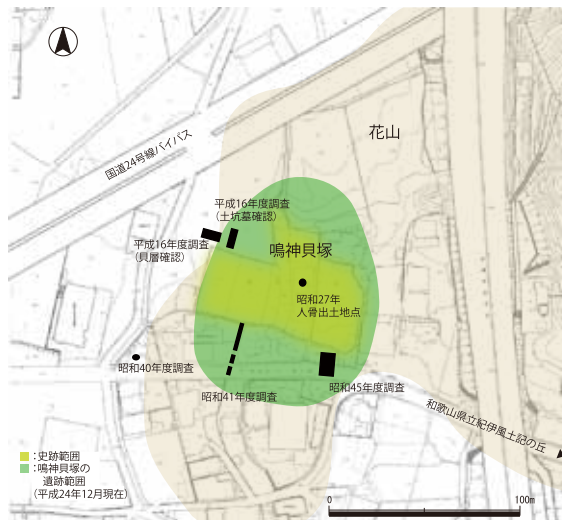
縄文時代早期～晩期の土器

石製品 (石鏃、石錘、石斧、磨石、石皿など)

骨角器 (ヘラ、根バサミ、ヤスなど)

装飾品 (サルの焼骨製耳飾り、玉類)

人骨、貝殻、魚骨、動物骨ほか



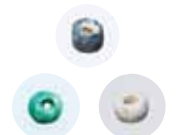
鳴神貝塚の調査位置図



サルの焼骨製耳飾り (白紙の上) をした女性の人骨出土状況 (鶴磨正信氏撮影)



サルの焼骨製耳飾り



小玉 (左下: ヒスイ製)



骨角器 (左:ヘラ、右上:根バサミ、右下:ヤス)



土坑に埋葬された女性の復顔



縄文土器 (早期～前期)



縄文土器 深鉢 (晩期)



石製品 (左から削器、小型磨製石斧、石鏃)